

袋井市駅前第一地区土地区画整理事業

に伴う発掘調査報告書 20

平成18年度

掛之上遺跡49・52

—写真図版編—

2007

静岡県袋井市教育委員会
袋井市役所都市建設部区画整理課

平成18年度

掛之上遺跡49・52

－ 写真図版編 －

2007

静岡県袋井市教育委員会
袋井市役所都市建設部区画整理課

例 言

1. 本書は、平成18年度に袋井市教育委員会と袋井市役所都市建設部区画整理課が実施した、掛之上^{かけのうえ}遺跡の第49・52次調査と第56次調査歩道区2・3の発掘調査報告書写真図版編（交付金予算分報告書）である。なお、第56次調査歩道区1は第56次調査区と一体化した調査区のため別報告書（報告書18）にて報告した。
2. 本発掘調査は袋井市教育委員会松井一明を発掘調査の担当者として実施した。
3. 本調査に係る事務については、袋井市役所都市建設部区画整理課公共施工係が行った。特に、公共施工係の久永豊彦、小池恵子、杉山資治、藤原資郎、大澤勇人、松井健尋の各氏には、現場と事務に関して円滑な調整をして頂いた。ここに記して感謝いたします。
4. 本書の編集は松井が行った。
5. 本書に使用した現場写真のうち、空中全景写真については株式会社フジヤマが撮影したものを、その他遺構個別写真については松井が撮影したものを使用した。
6. 本調査で得た資料については、すべて袋井市教育委員会が保管している。

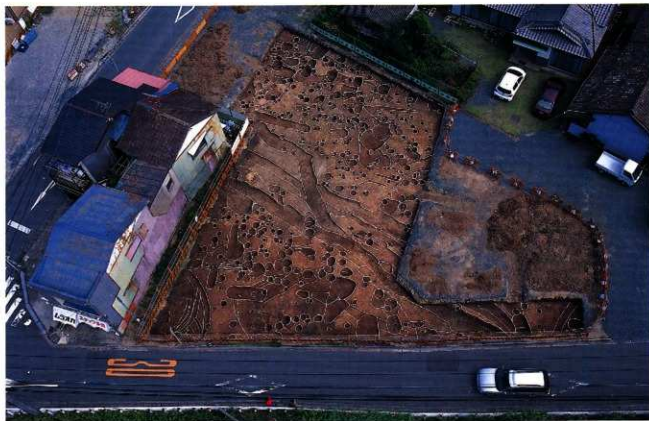
写真図版目次

- 巻頭カラー図版1 (1) 第49次発掘調査区空中写真全景 (2) 第49次発掘調査区空中写真全景
巻頭カラー図版2 (1) 第49次発掘調査区空中写真全景 (2) SH3
巻頭カラー図版3 (1) 第52次発掘調査区空中写真全景 (2) 第52次発掘調査区空中写真全景
巻頭カラー図版4 (1) SH17~19 (2) SH18・19 SZ16
図版1 (1) 第49次発掘調査区空中写真遠景 (2) 第49次発掘調査区空中写真全景
図版2 (1) 第49次発掘調査区空中写真全景 (2) 第49次発掘調査区空中写真全景
図版3 (1) SB24 (2) SB24
図版4 (1) SB25 (2) SB25
図版5 (1) SB26 (2) SB26
図版6 (1) SB26炉跡 (2) SB27
図版7 (1) SB27 (2) SB27炉跡
図版8 (1) SB28 (2) SB28
図版9 (1) SB28炉跡 (2) SB29
図版10 (1) SB29 (2) SB29炉跡
図版11 (1) SB30 (2) SB31
図版12 (1) SB31 (2) SB32
図版13 (1) SB32炉跡1 (2) SB32炉跡2
図版14 (1) SH3 (2) SH3
図版15 (1) SH3 (2) SH3-P4土層
図版16 (1) SH3-P5土層 (2) SH3-P5
図版17 (1) SH3-P6土層 (2) SH3-P6
図版18 (1) SH3-P7土層 (2) SH3-P7
図版19 (1) SD30~32 (2) SD30・34~36
図版20 (1) SD35出土土器 (2) SD35出土土器
図版21 (1) SD35出土土器 (2) SD35出土土器
図版22 (1) SD36 (2) SD36出土土器
図版23 (1) SK87~89 (2) SK90
図版24 (1) SK90土層 (2) SK91
図版25 (1) SK91 (2) SK95・97
図版26 (1) SK95土層 (2) SK98・99
図版27 (1) SK101 (2) SP96
図版28 (1) SP111 (2) 調査区北西端西壁土層
図版29 (1) 重機による表土掘削作業 (2) 人力による作業風景
図版30 (1) 第52次発掘調査区空中写真遠景 (2) 第52次発掘調査区空中写真全景
図版31 (1) 第52次発掘調査区空中写真全景 (2) 第52次発掘調査区全景
図版32 (1) SB5 (2) SB5
図版33 (1) SB5炉跡 (2) SB6

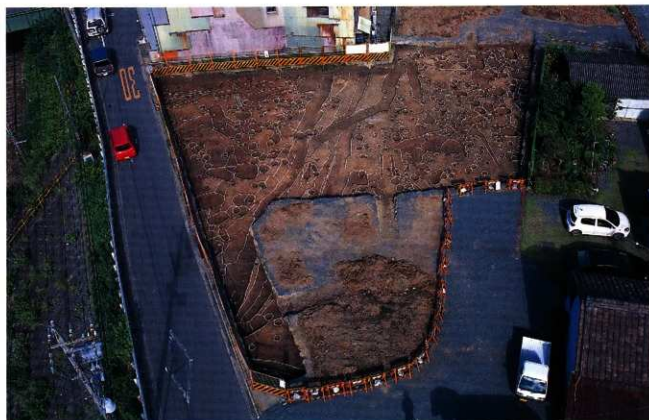
- 図版34 (1) SB6 炉跡 (2) SB7
- 図版35 (1) SB7 炉跡 (2) SB8
- 図版36 (1) SH17~19 (2) SH17
- 図版37 (1) SH17-P2 (2) SH17-P3
- 図版38 (1) SH18 (2) SH18
- 図版39 (1) SH18-P1 (2) SH18-P2
- 図版40 (1) SZ7 (2) S7南溝・SZ16北溝土層
- 図版41 (1) SZ7南溝出土土器 (2) SZ16
- 図版42 (1) SZ16 (2) SZ16北西コーナー
- 図版43 (1) SZ16北溝土層 (2) SZ16東溝土層
- 図版44 (1) SZ16東溝内焼土 (2) SD29
- 図版45 (1) SD31 (2) SD31
- 図版46 (1) SD31土層 (2) SD34~36
- 図版47 (1) SD35土層 (2) SD32土層
- 図版48 (1) SD33 (2) SK50
- 図版49 (1) SK54 (2) SP55出土石器
- 図版50 (1) 調査区東壁土層 (2) 重機による表土掘削作業
- 図版51 (1) 人力による作業風景 (2) ラジコンヘリによる写真撮影と測量風景
- 図版52 (1) 南側溝分西調査区全景 (2) 南側溝分西調査区全景
- 図版53 (1) 南側溝分東調査区空中写真全景 (2) 南側溝分東調査区空中写真全景
- 図版54 (1) SB2 (2) SB2かまど
- 図版55 (1) SB3 (2) SB4
- 図版56 (1) SD31 (2) SK49
- 図版57 (1) SK50 (2) SK51
- 図版58 (1) 第56次調査区歩道区1~3空中写真全景 (2) 第56次調査区歩道区2空中写真全景
- 図版59 (1) 第56次調査歩道区2全景 (2) SH1-P14土層
- 図版60 (1) SH1-P14 (2) 第56次調査歩道区3写真
- 図版61 (1) SH1-P1土層 (2) SH1-P1

※表紙写真 第49次調査区SH3空中写真 (郡衙関連の上間式大型掘立柱建物と思われるが、正倉院区画溝外の建物である。西より)

写 真 图 版



(1) 第49次発掘調査区空中写真全景
(上端に奈良時代の土間式大型掘立柱建物が見られる。南より)



(2) 第49次発掘調査区空中写真全景
(全面に弥生中～後期の竪穴住居と土坑が密集して見られる。東より)



(1) 第49次発掘調査区空中写真全景
(溝は弥生中〜後期と江戸末期〜明治時代に該当する。上が東である。真上より)



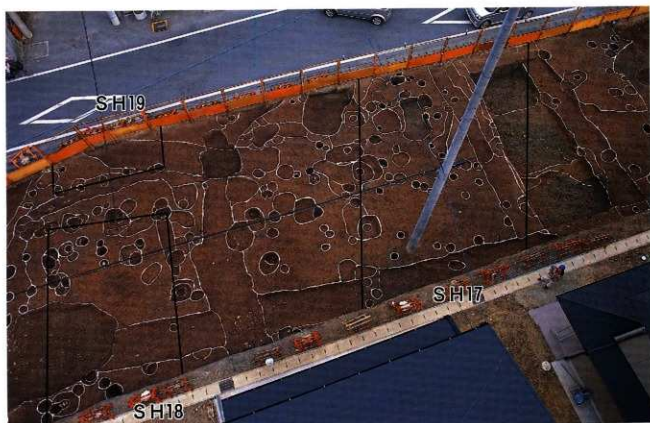
(2) SH3
(奈良時代の土間式大型掘立柱建物で、都衙関連建物と思われる。南半分の検出となっている。南より)



(1) 第52次発掘調査区空中写真全景
(上端に奈良時代の区画溝と中程に土間式大型掘立柱建物が見られる。東より)



(2) 第52次発掘調査区空中写真全景
(全面に弥生中～後期の竪穴住居や土坑と奈良時代の掘立柱建物が見られる。上が北である。真上より)



(1) SH17~19

(右側が土間式大型掘立柱建物、左側が土間式長屋風掘立柱建物である。
何れも奈良時代の都御正倉院関連建物である。南より)



(2) SH18・19 SZ16

(弥生後期の方形周溝墓と奈良時代の土間式掘立柱建物と重複している。上が西である。真上より)



(1) 第49次発掘調査区空中写真遠景
 (手前の住宅地が損之上・大門遺跡が立地する段丘、水田地帯が旧高尾池跡になる。
 左側上端は団子塚遺跡が立地する段丘となる。北東より)



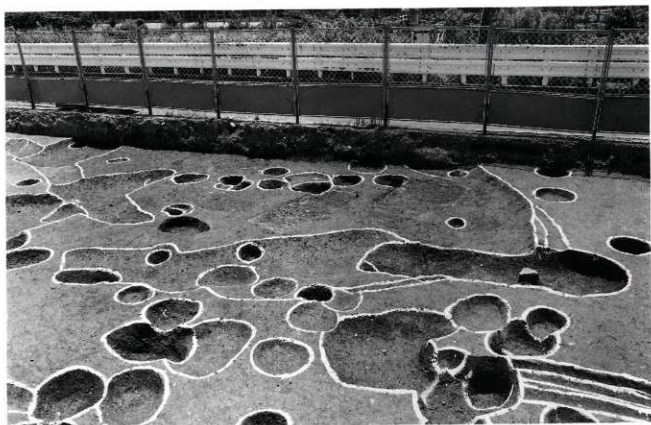
(2) 第49次発掘調査区空中写真全景
 (左端に奈良時代の土間式大型掘立柱建物が見られる。西より)



(1) 第49次発掘調査区空中写真全景
 (中央の溝群は弥生中～後期と江戸末期～明治時代に該当する。北側の谷への排水用と思われる。北より)

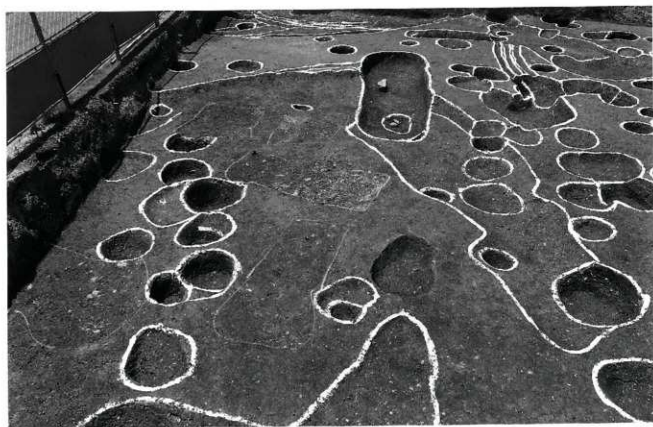


(2) 第49次発掘調査区空中写真全景
 (全面に弥生中～後期の竪穴住居と土坑が密集して確認された。西より)



(1) S B24

(弥生後期の竪穴住居と思われるが、攪乱が多いため残存状況は良くなかった。北より。)

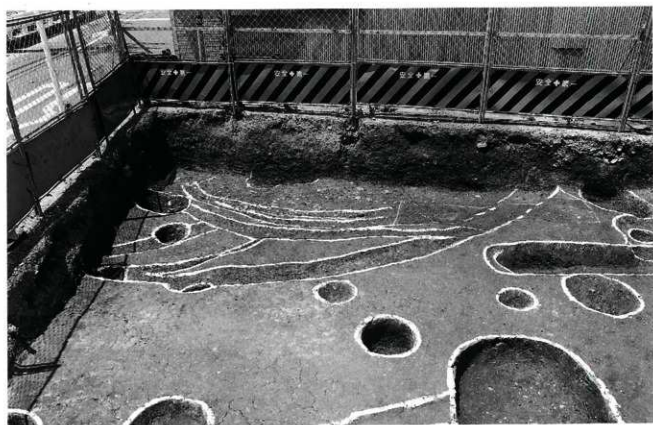


(2) S B24

(隅丸方形のプランで、一部壁溝が確認できた。炉跡は確認できなかった。東より。)

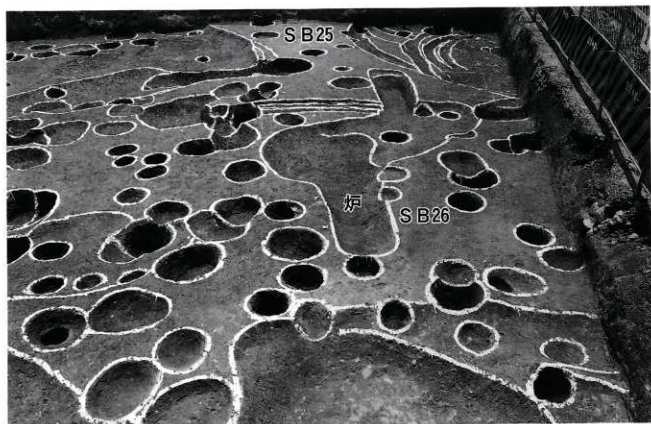


(1) S B 25 (弥生後期の竪穴住居で、掘り込みが深く保存の良い住居である。北より。)



(2) S B 25

(長楕円型のプランで、壁溝から見ると最低6回の建替が認められた。炉跡は確認できなかった。東より。)



(1) S B 26

(弥生後期の竪穴住居と思われるが、貼床面と壁溝の一部確認できたが掘り込みが浅いため全体のプランは良く分からない。一部の壁溝の形状から見ると長楕円形となるかもしれない。北より。)

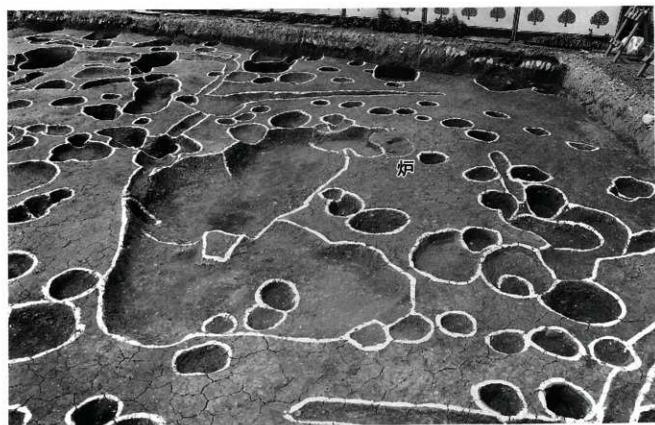


(2) S B 26

(壁溝から見ると最低3回の建替が認められた。炉跡は地床炉が一箇所確認できた。東より。)



(1) S B26炉跡
(地床炉で良く焼けている。弥生後期の土坑S K91により切られている。東より)

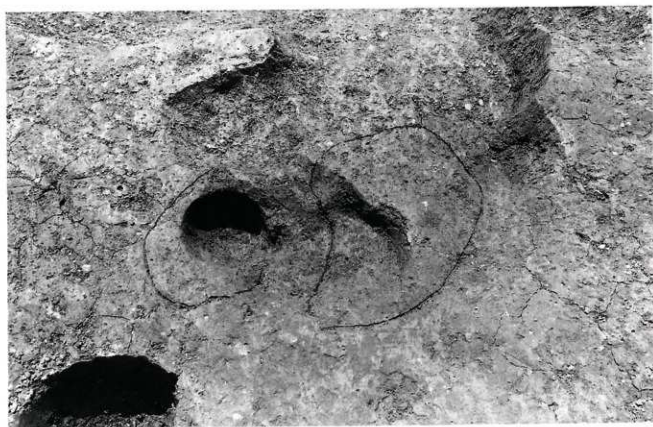


(2) S B27
(弥生後期の竪穴住居で、掘り込みが浅いため壁溝は一部の検出となっている。
プランは隅丸方形になると思われる。南より。)



(1) SB27

(張床面は軟弱で壁溝も1本のため、建替はないと思われる。
東より) 地床炉が確認できた。切合関係からは土坑のほうが新しい。東より。)



(2) SB27炉跡 (地床炉で良く焼けている。東より)



(1) S B28

(弥生後期の竪穴住居で、掘り込みが浅いため壁溝は一部の検出となっている。プランは隅丸方形である。南より。)

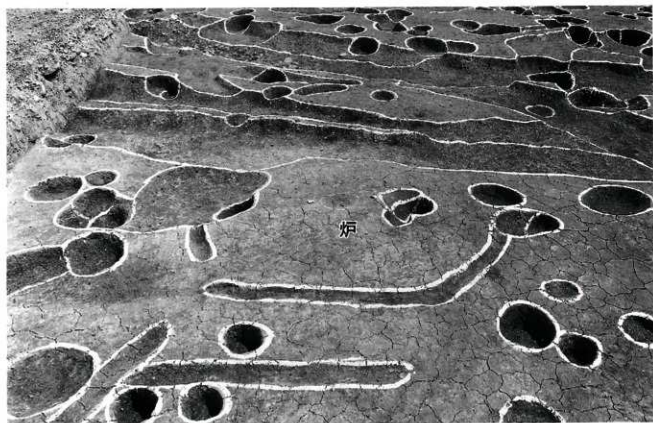


(2) S B28

(張床面は軟弱で壁溝も1本のため、建替はないと思われる。地床炉が確認できた。東より。)



(1) S B28炉跡(地床炉で良く焼けている。2箇所隣接して見つかった。東より)



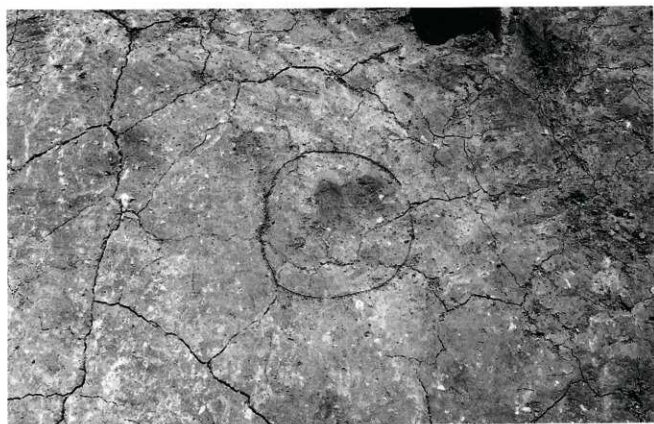
(2) S B29

(弥生後期の小型の竪穴住居で、掘り込みが浅いため壁溝は一部の検出となっている。プランは楕円型かと思われる。北より。)

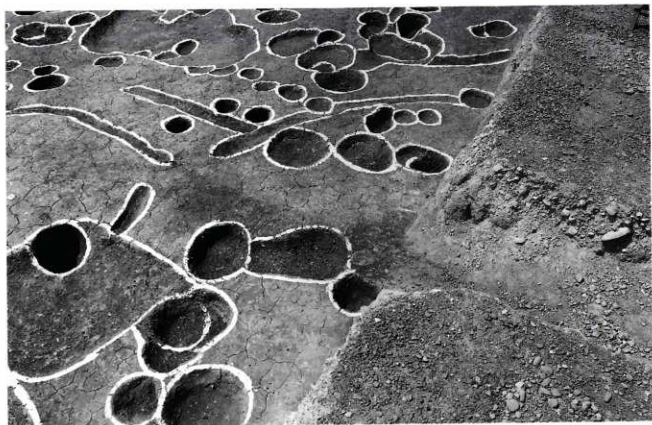


(1) S B29

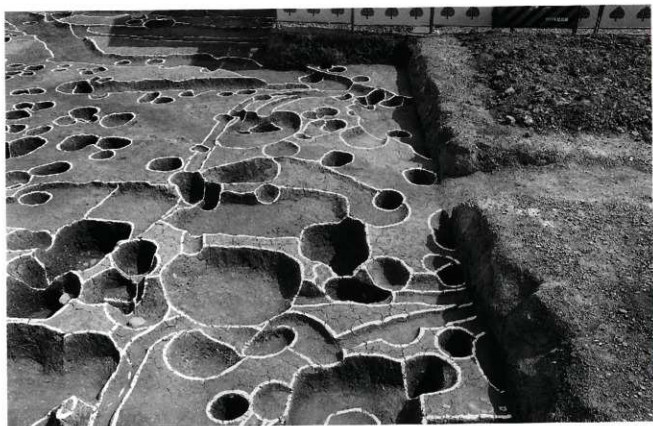
(張床面は確認できた。壁溝は2本確認できたため、建替は2回はあったと思われる。中央に地床炉が確認できた。東より。)



(2) S B29炉跡 (地床炉で良く焼けている。東より)



(1) S B30 (弥生後期になるとと思われる竪穴住居で、掘り込みが浅いため壁溝は一部の検出となっている。プランは一部の検出でよく分からないが長楕円型かと思われる。壁溝は2本確認できたため、建替は2回はあったと思われる。南東より)



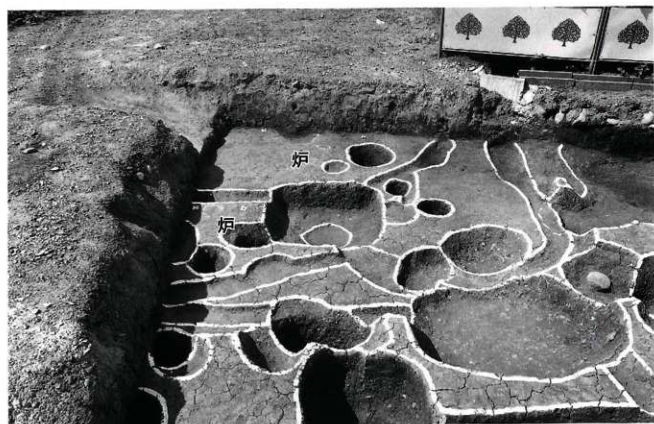
(2) S B31

(弥生後期の竪穴住居で、土坑と切り合うため壁溝は一部の検出となっている。プランは隅丸方形かと思われる。北より。)



(1) S B31

(張床面は確認できた。壁溝は2本確認できたため、建替は2回はあったと思われる。炉跡は確認できなかった。東より。)



(2) S B32 (弥生後期になるとされる竪穴住居で、掘り込みは深く保存状況は良かった。プランは一部の検出でよく分らないが長楕円型から隅丸方形に変化すると思われる。壁溝は3本確認できたため、建替は最低3回はあったと思われる。地床炉が2箇所確認されている。南より)



(1) S B32炉跡1 (やや浮いており、南側で確認された。地床炉であり良く焼けいいない。南より)



(2) S B32炉跡2 (調査区境で確認された。地床炉で良く焼けている。南より)

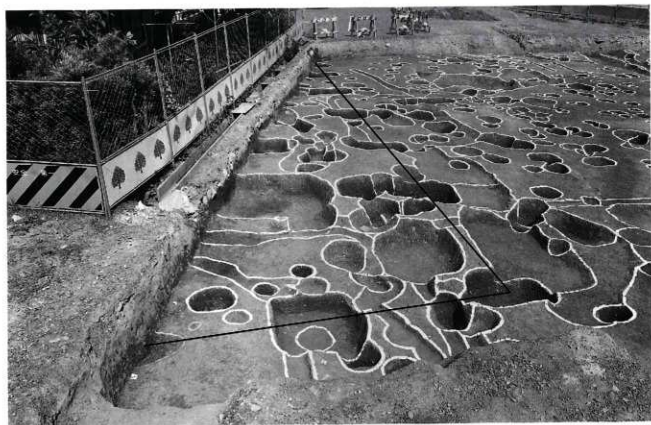


(1) SH3 (郡衙関連の建物ではあるが、正倉院区画溝外の建物となっている。西より)

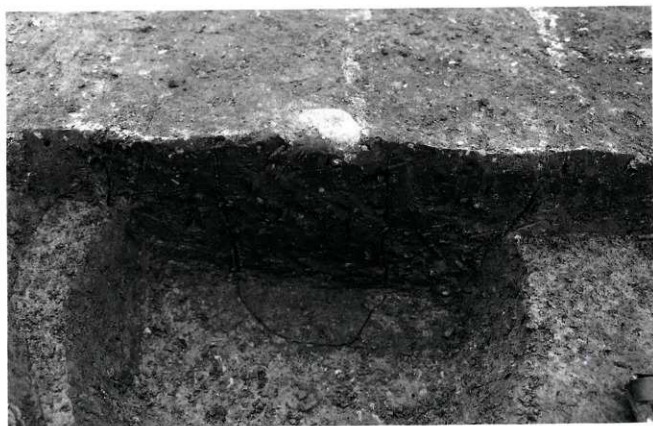


(2) SH3

(長軸を東西方向に向ける上間式大型掘立柱建物である。上が北である。真上より)



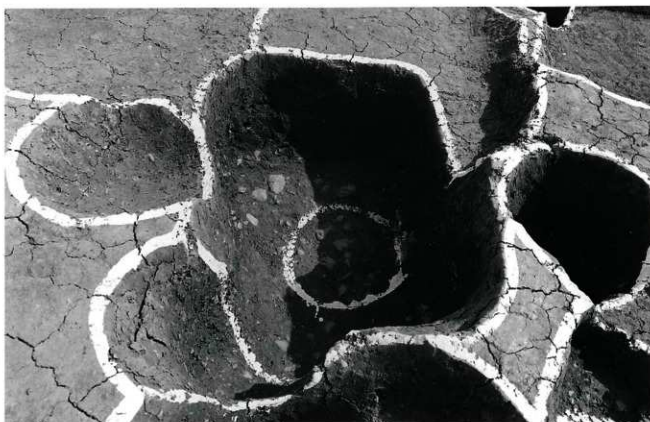
(1) SH3 (弥生後期の竪穴住居や土坑と重複している。西より)



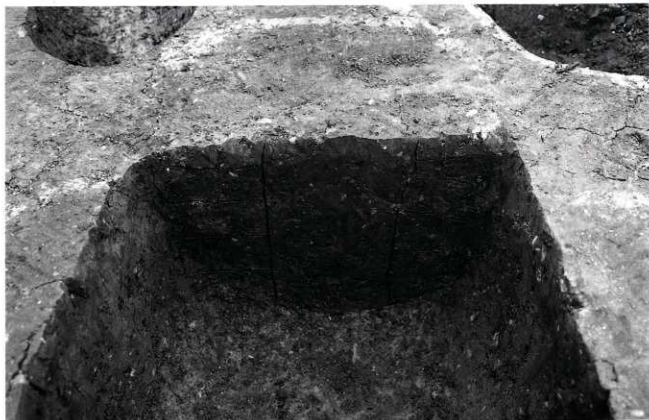
(2) SH3-P4土層 (上層からは直径50cmの柱痕跡が確認できた。南より)



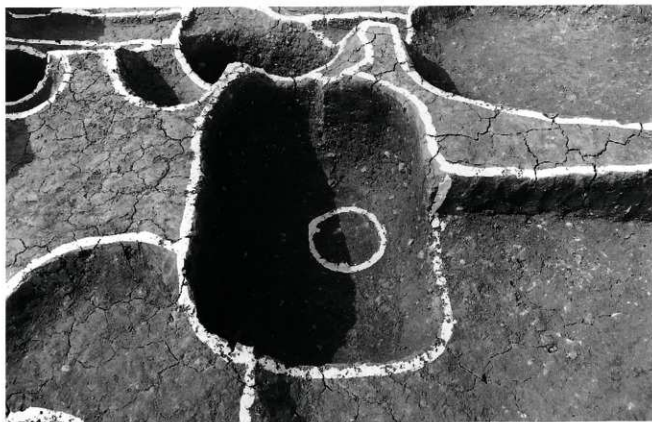
(1) SH3-P5土層（土層からは直径50cmの柱痕跡が確認できた。南より）



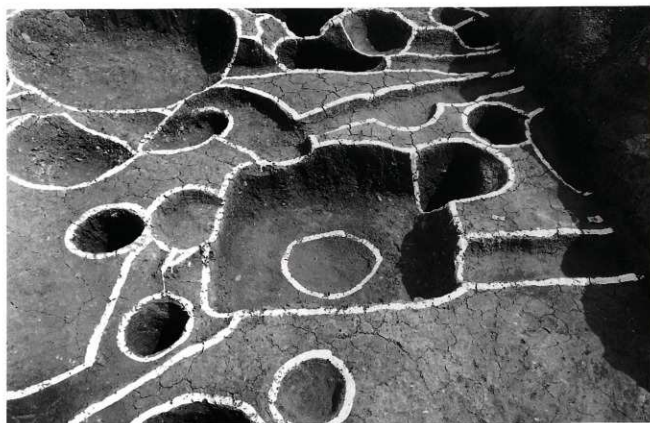
(2) SH3-P5（長方形の掘方をもち、底に直径50cmの柱痕跡が確認できた。北より）



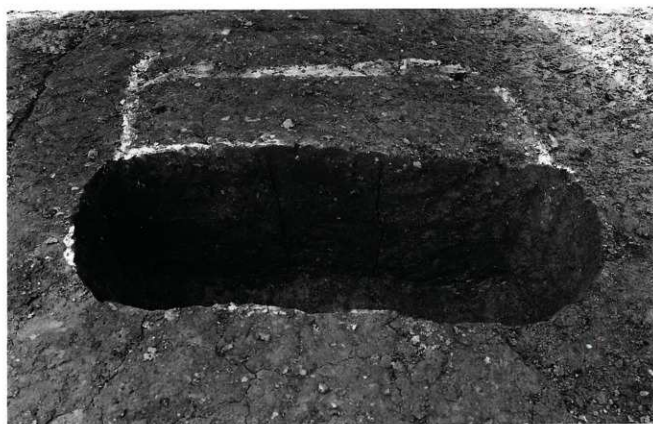
(1) SH3-P6土層（土層からは直径50cmの柱痕跡が確認できた。南より）



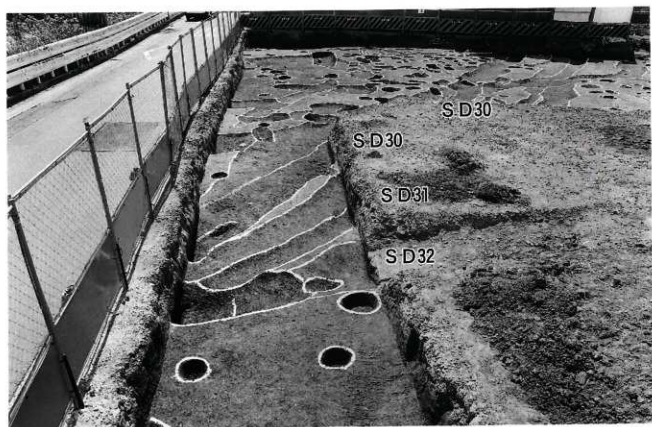
(2) SH3-P6（長方形の掘方をもち、底に直径50cmの柱痕跡が確認できた。南より）



(1) SH3-P7土層（土層からは直径40cmの柱痕跡が確認できた。北より）



(2) SH3-P7（方形の掘方を持ち、底に直径50cmの柱痕跡が確認できた。南より）



(1) S D 30～32

(S D 32は弥生後期、S D 30・31は江戸末期～明治時代の溝である。何れも排水用と思われる。東より)



(2) S D 30・34～36

(S D 36は弥生中期、S D 35は弥生後期、S D 30・34は江戸末期～明治時代の溝である。
S D 30・34・35は排水用と思われる。東より)



(1) S D35出土土器（弥生後期の土器の破片がまとめて廃棄されている。南より）



(2) S D35出土土器

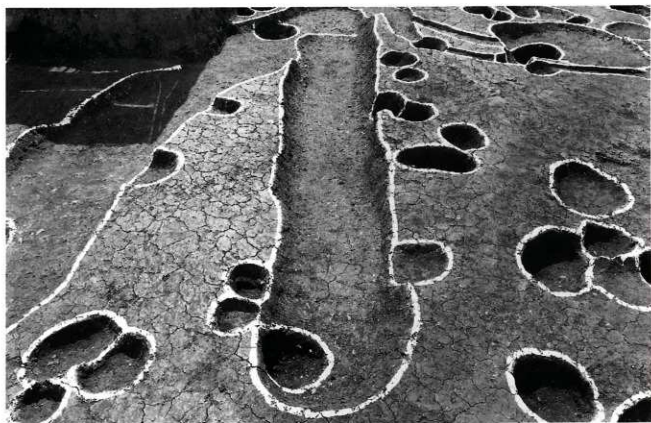
(No 1～6は何れも細片化した壺が主体で、明らかに廃棄されたものと分かる。東より)



(1) SD35出土土器 (No 3・6で、壺の口縁部が見える。東より)



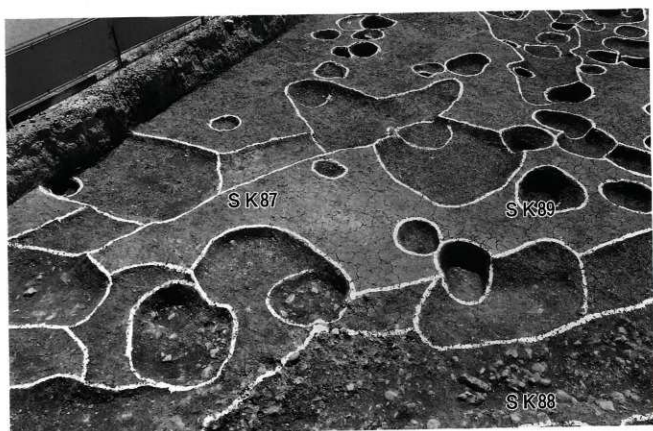
(2) SD35出土土器
(No 6～9も細片化した壺が主体で、口縁部も一部確認できる。東より)



(1) S D36 (弥生中期の短い溝で、何らかの区画溝であろうか。東より)

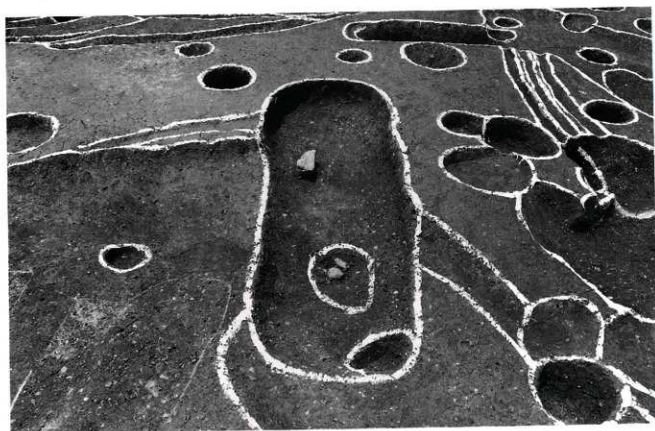


(2) S D36出土土器 (No 1で、弥生中期の甕の大型破片である。西より)



(1) S K87～89

(何れも弥生後期の不定形土坑で、出土土器量は少ない。
隣接するS B24に関係した廃棄土坑群であろうか。東北より)



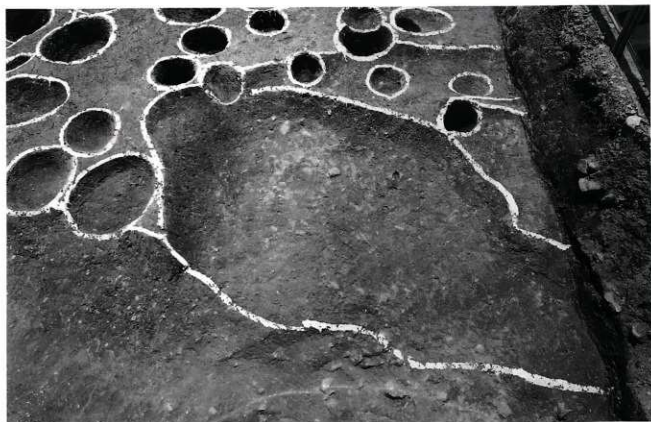
(2) S K90 (弥生後期の長楕円形土坑。切合関係からはS B24よりは古い。東より)



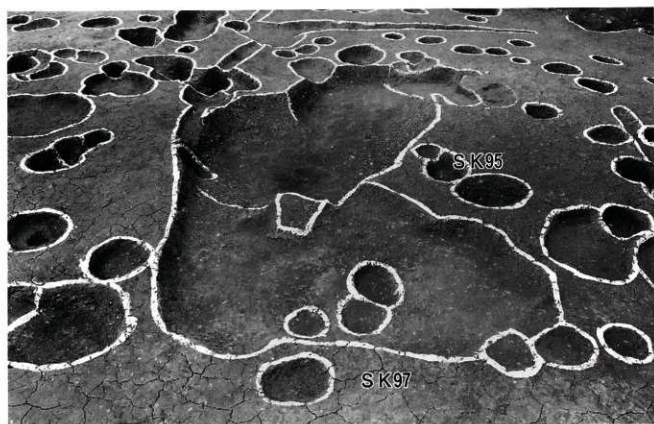
(1) S K90土層（土層からは自然堆積で、一度に埋められた状況は認められない。東より）



(2) S K91（弥生後期の長槽円形土坑。切合関係からはS B26よりは新しい。北より）



(1) SK91 (弥生後期の長楕円形土坑。切合関係からはSB26よりは新しい。北より)



(2) SK95・97

(弥生後期の不定形土坑。切合関係からはSB27よりは新しい。
土器片がまをもって出土しており、廃棄土坑と考えられる。南より)



(1) SK95上層（土層からは自然堆積で、一度に埋められた状況は認められない。北より）



(2) SK98・99

（弥生後期の方形土坑。切合関係からはSB31よりは新しい。廃棄土坑と考えられる。南より）



(1) S K101 (江戸末期の方形土坑である。水留用であろうか。西より)



(2) S P96 (弥生中期の壺の破片がまとまって出土した。南より)



(1) SP111 (扁平片刃石斧が浮いた状態で出土した。東より)



(2) 調査区北西端西壁土層

(厚さ20cmの包含層が、厚さ40cmの表土層下で確認できた。包含層は北西端のみ残存していた。東より)



(1) 重機による表土掘削作業
(北西端で一部包含層が確認できたが、概ね表土を遺構確認面まで掘削することができた。)



(2) 人力による作業風景 (SH3の調査を進めている。柱穴の大きさが良く分かる。)



(1) 第52次発掘調査区空中写真遠景
(手前の住宅地が掛之上遺跡が立地する段丘、通かな丘陵地は磐田原台地である。左側は袋井駅前である。東より)



(2) 第52次発掘調査区空中写真全景
(手前に奈良時代の郡衙正倉院東辺を区画する溝、中央に土間式と思われる大型掘立柱建物が存在する。東より)



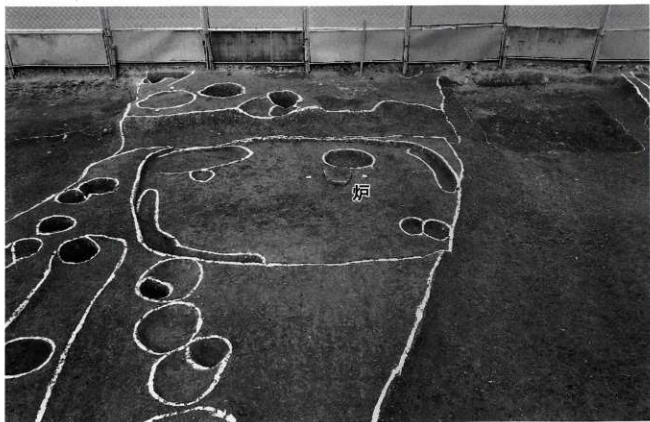
(1) 第52次発掘調査区空中写真全景

(中央の溝は江戸末期～明治時代の水溜用の大型土坑であろう。この部分は古墳後期までは窪地で、奈良時代に正倉院を設置するために大規模に整地したと思われる。上が北である。真上より)



(2) 第52次発掘調査区全景

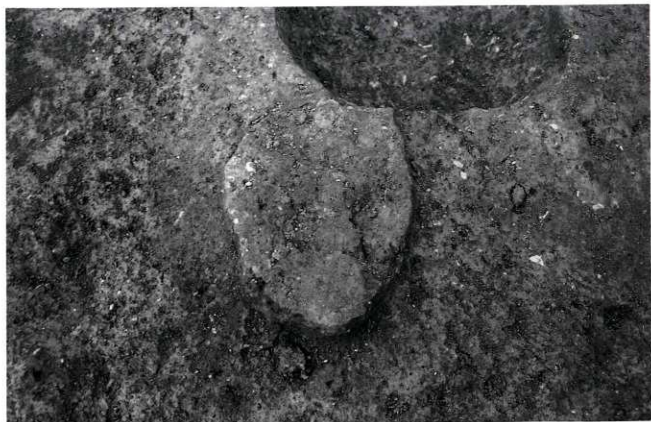
(手前に弥生後期の方形周溝墓と奈良時代の掘立柱建物が見られる。西より)



(1) S B 5 (弥生後期の小型竪穴住居である。隅丸方形のプランである。南より)



(2) S B 5 (一部壁溝があるが全周しない。炉は北東による。東より)



(1) SB 5 炉跡 (地床炉で良く焼けている。南より)



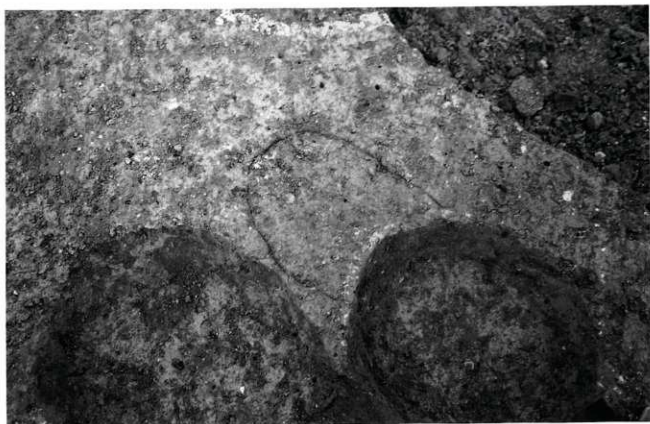
(2) SB 6 (炉跡と柱穴は確認できたが。壁溝は検出できなかった。南より)



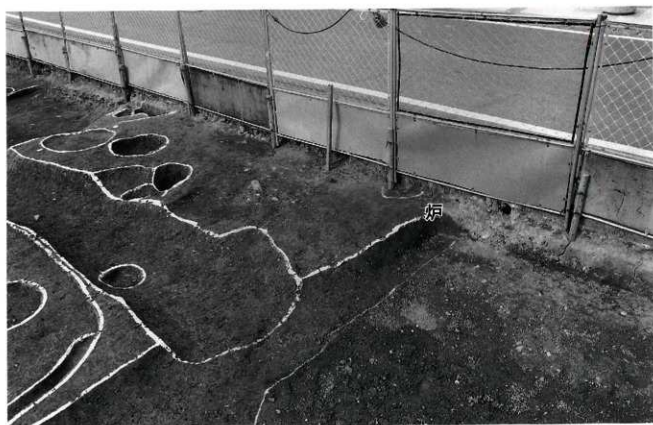
(1) S B 6 炉跡（良く焼けた地床炉が2箇所検出された。南西より）



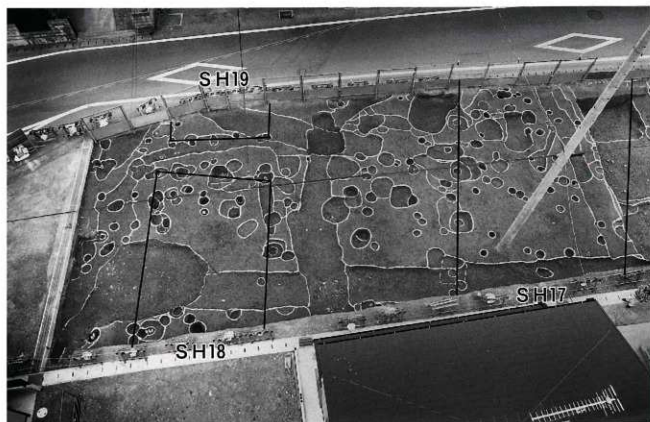
(2) S B 7（炉跡と柱穴は確認できたが、壁溝は一部の検出しかできなかった。東より）



(1) SB 7 炉跡 (あまり良く焼けていない地床炉である。南西より)

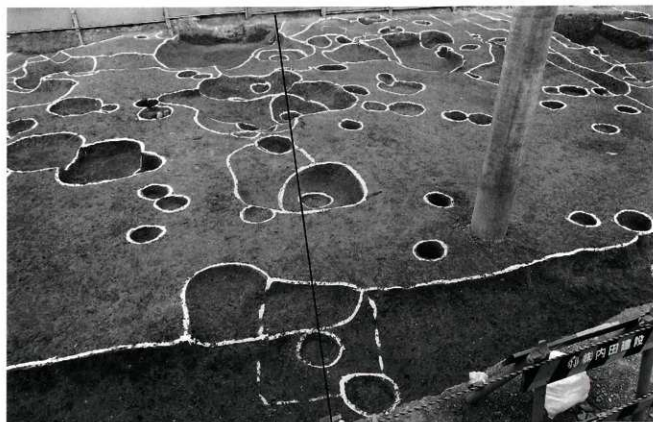


(2) SB 8 (炉跡と柱穴は確認できたが、壁溝は検出できなかった。南東より)

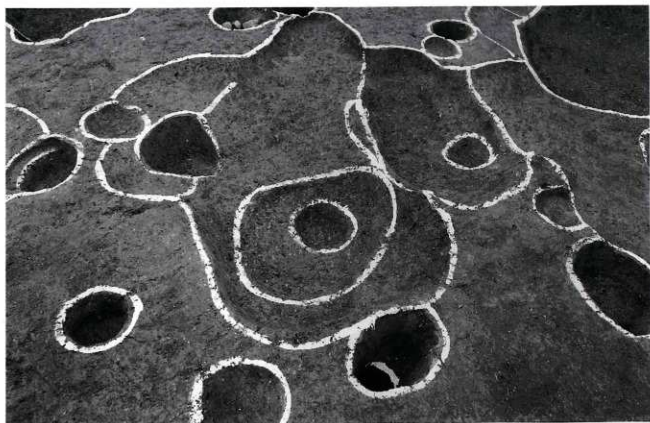


(1) SH17~19

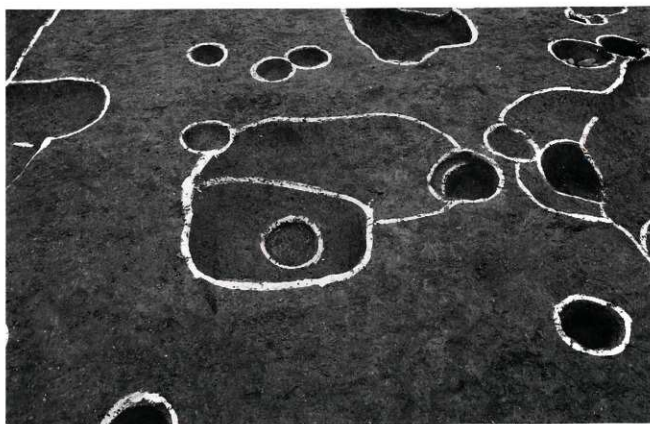
(右側がSH17の土間式大型掘立柱建物で、左側がSH18の土間式の
長屋風掘立柱建物である。何れも郡衙正倉院関連建物である。南より)



(2) SH17 (西側の柱列しか検出できなかった。南より)



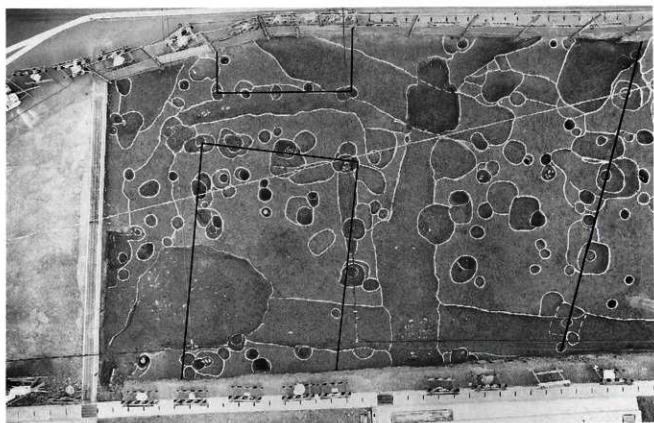
(1) SH17-P 2 (方形の掘方もち、底に直径40cmの柱痕跡が確認できた。東より)



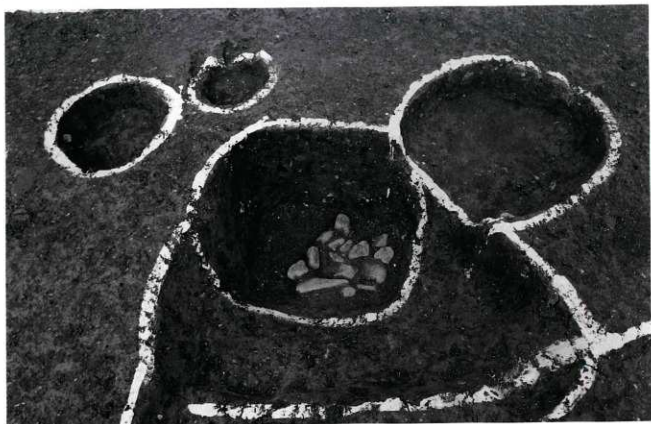
(2) SH17-P 3 (方形の掘方もち、底に直径40cmの柱痕跡が確認できた。東より)



(1) SH18 (土間式の長屋風掘立柱建物で、方形周溝墓と重複して検出された。南より)



(2) SH18 (梁行3間、桁行4間以上の建物である。上が北である。真上より)



(1) SH18-P1

(方形の掘方もち、底に直径30cmの柱痕跡と根巻石が確認できた。南より)



(2) SH18-P2

(方形の掘方もち、底に直径30cmの柱痕跡と根巻石が確認できた。南より)



(1) SZ7

(弥生中期の方形周溝墓の南溝と東溝の一部が確認できた。南東コーナーに陸橋が認められた。東より)

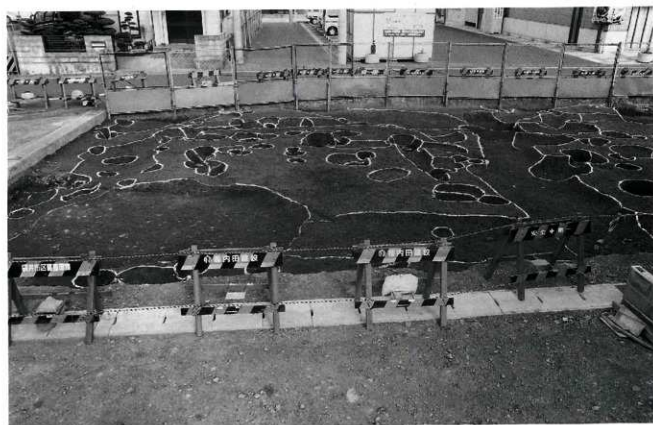


(2) S7南溝・SZ18北溝土層

(土層からは何れも自然堆積を示し、明確な切合関係は確認できなかった。西より)



(1) S Z 7南溝出土土器（弥生中期の小型壺が西端より浮いた状態で出土した。西より）

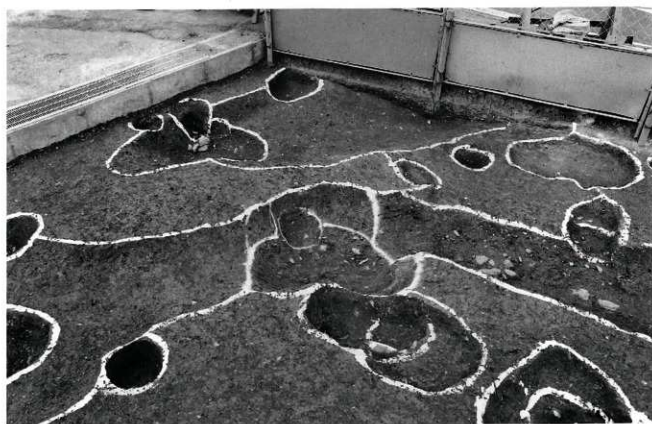


(2) S Z 16

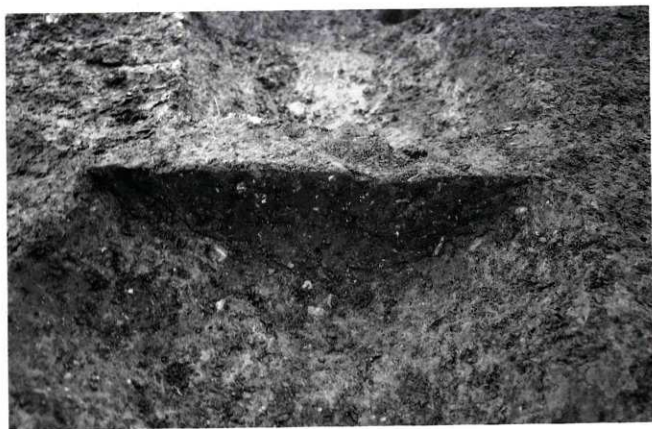
（弥生後期の方形周溝墓で北溝と東・西溝の一部が確認できた。
各隅は溝幅は減ずるが全周する形態になると思われる。南より）



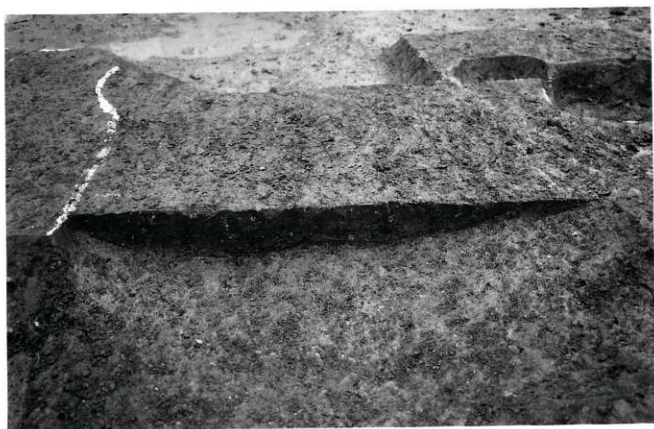
(1) S Z16 (溝や掘立柱建物と重複している。西より)



(2) S Z16北西コーナー (溝幅は減ずるが連結している。南東より。)



(1) S Z 16北溝土層（土層からは自然堆積を示し、盛土の流入は認められなかった。東より）



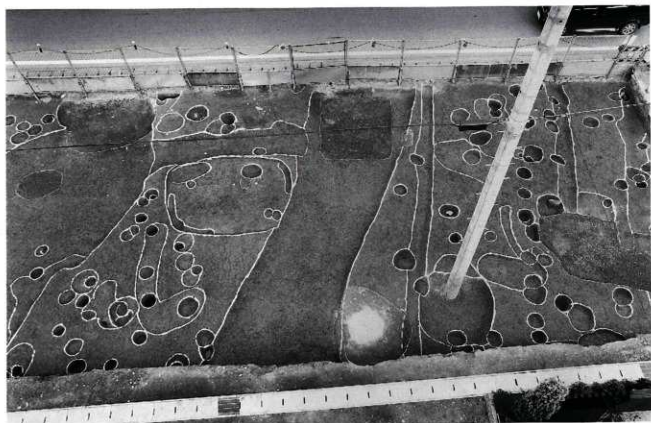
(2) S Z 16東溝土層（土層からは自然堆積を示し、盛土の流入は認められなかった。北より）



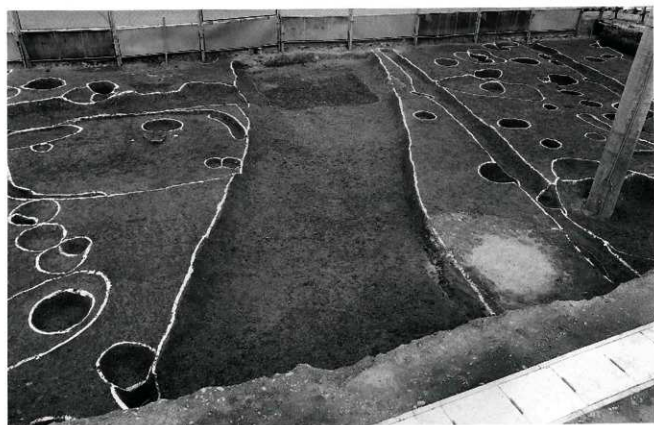
(1) SZ16東溝内焼土（底部分で検出されたが、あまり良く焼けていない。南より）



(2) SD29（直線的にのびた溝である。区画溝か。西より）



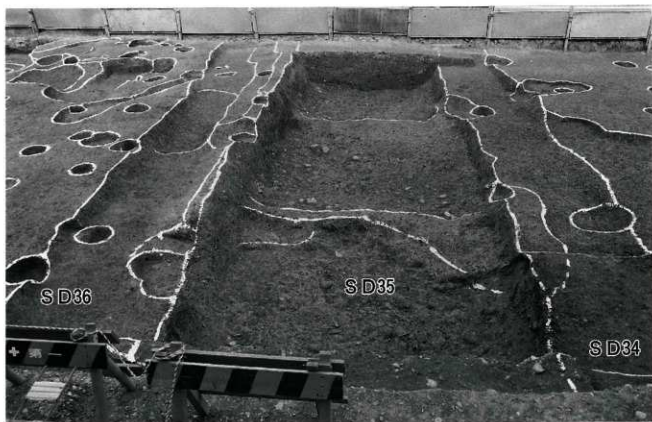
(1) S D3I (郡衙正倉院東辺を区画する溝である。南より)



(2) S D3I (大型掘立柱建物と主軸方向が一致する。南より)



(1) S D31土層（土層からは自然堆積を示し、再掘削等は認められなかった。北より）



(2) S D34～36

（S D34は弥生後期の溝、S D36・35は江戸末期～明治時代の溝である。南より）



(1) S D35土層

(上層は下層が粘土質、上層は礫混じりの上となるため、
水溜用の大型土坑を埋立た状況を示していると思われる。南より)

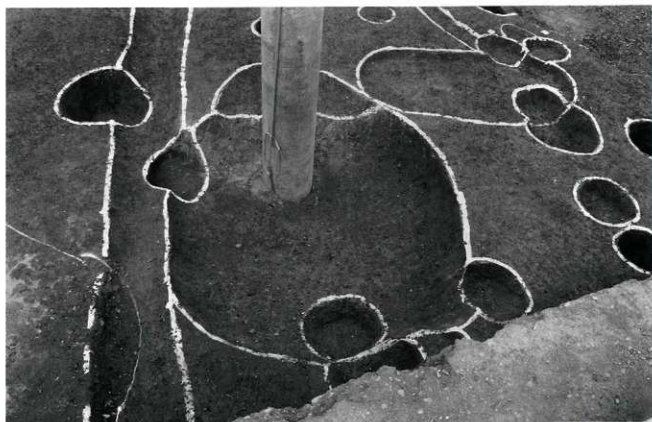


(2) S D32土層 (弥生後期の溝で、自然堆積を示している。南より)



(1) S D33

(古墳後期の時期で、溝というより浅谷地形を示す。
奈良時代に埋立整地して郡衙正倉院を造成したと思われる。南より)



(2) S K50 (弥生後期の円形土坑である。土器片がまとめて出土した。南より)



(1) SK54 (弥生後期の方形土坑である。土器片が少量出土した。南より)



(2) SP55出土石器 (蛤刃石斧が底よりやや浮いて出土した。南より)



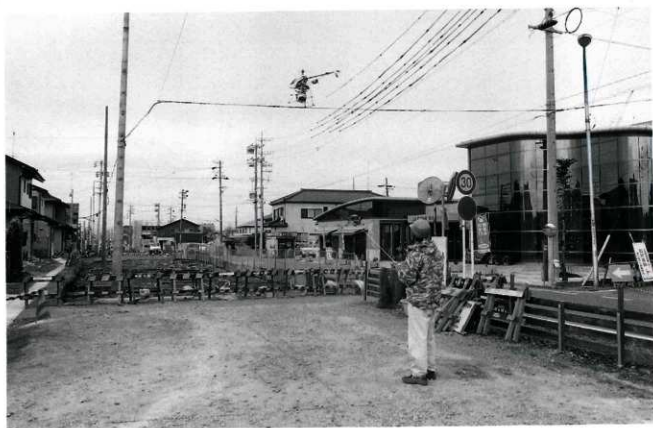
(1) 調査区東壁土層（東端のみに厚さ20cmの包含層が部分的に確認できた。西より）



(2) 重機による表土掘削作業
(東端で一部包含層が確認できたが、概ね表土を遺構確認面まで掘削することができた。)



(1) 人力による作業風景 (SH16付近の調査を進めている。)



(2) ラジコンヘリによる写真撮影と測量風景



(1) 南側満分西調査区全景 (SH18柱穴やSZ16の溝が検出されている。東より)



(2) 南側満分西調査区全景 (西より)



(1) 南側溝分東調査区空中写真全景
(古墳後期の竪穴住居や奈良時代の区画溝が検出された。東より)



(2) 南側溝分東調査区空中写真全景 (上が北である。真上より)

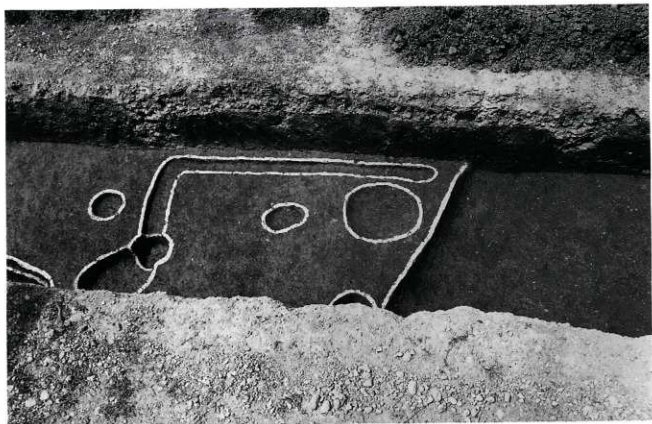


(1) SB2

(古墳後期の方形プランの竪穴住居である。壁溝と北壁部分にかまどが検出された。北より)

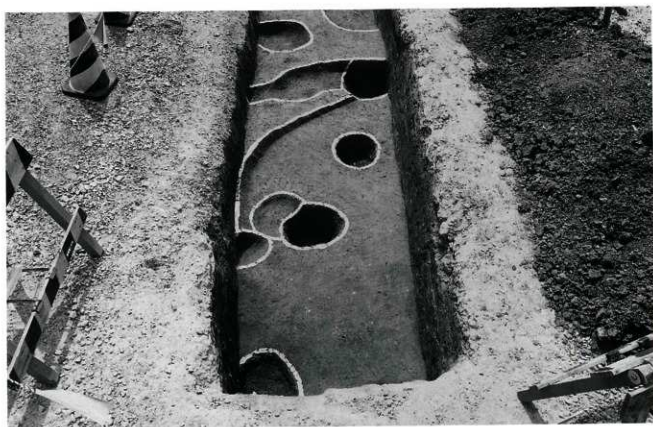


(2) SB2かまど (かまど本体が壊されており、焚口の焼土が検出された。北より)



(1) SB3

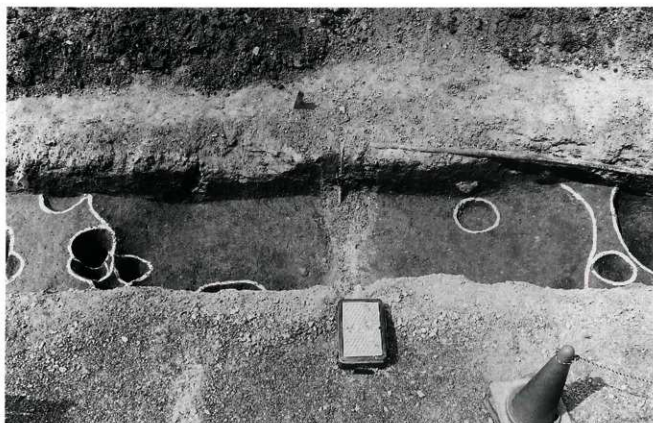
(古墳後期の方形プランの竪穴住居と思われるが、壁溝の一部の検出に留まった。南より)



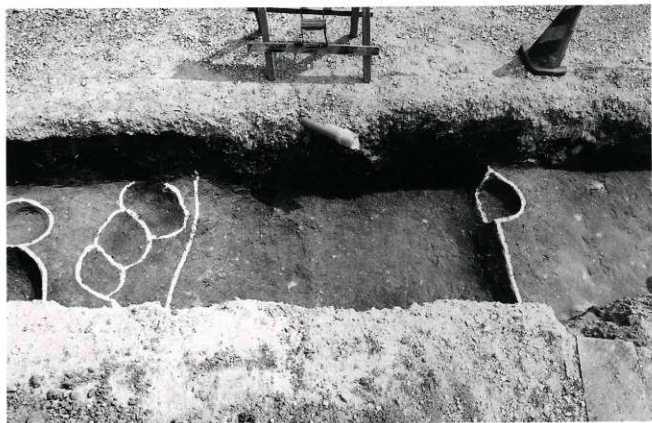
(2) SB4 (弥生後期の竪穴住居と思われる。楕円型プランを示すか。東より)



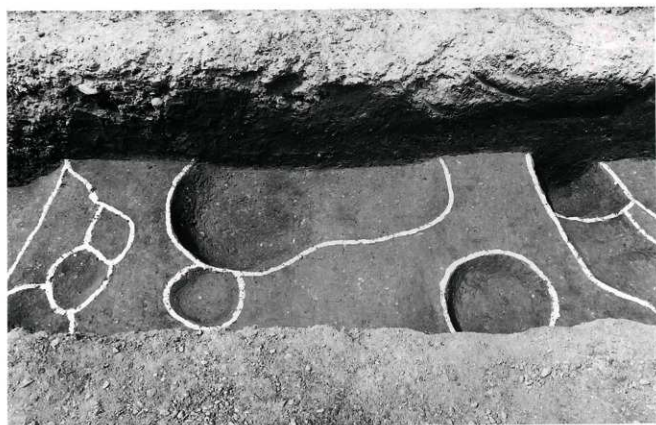
(1) S D31 (奈良時代の郡衙正倉東辺を区画する溝。南より)



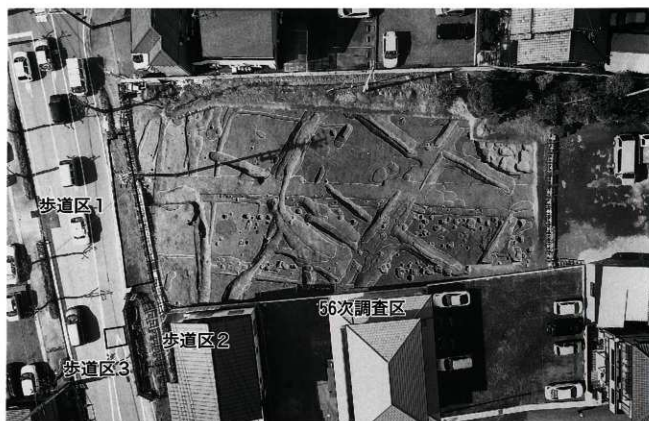
(2) S K49 (弥生中期の土器片がまとめて出土した。南より)



(1) S K50 (弥生後期の大型土坑。南より)



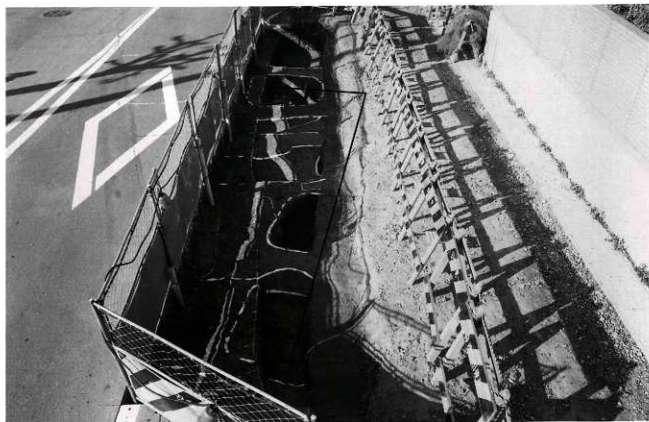
(2) S K51 (弥生後期の土坑。南より)



(1) 第56次調査区歩道区1～3空中写真全景
(歩道区1～3の位置を示す。歩道区2のみが撮影されている。上が西である。真上より。)



(2) 第56次調査区歩道区2空中写真全景
(奈良時代の大型掘立柱建物であるSH1の北側の柱列が検出された。上が北である。真上より。)



(1) 第56次調査歩道区2全景
(SH1の柱穴と方形周溝墓の溝が一部で重複している。東より)



(2) SH1-P14土層
(土層からは柱が抜き取られているせいか柱痕跡は確認できなかった。東より)



(1) SH1-P14

(方形の掘方もち、底にやや浮いた根巻石が確認でき、直径50cmの柱痕跡が復元することができた。東より)



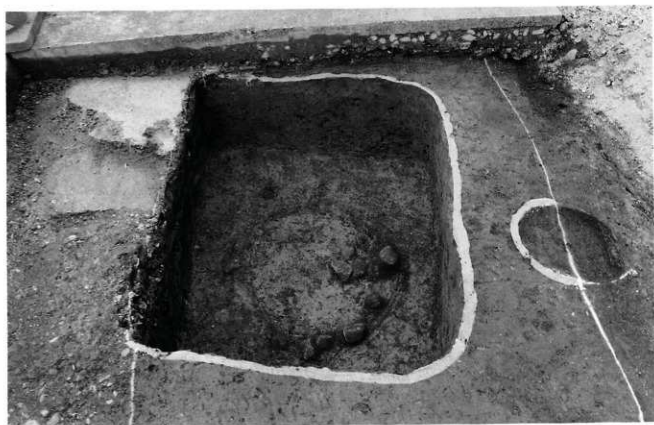
(2) 第56次調査歩道区3全景

(現道の下よりSH1の西側柱列のP1が検出された。東より)



(1) SH1-P1土層

(土層からは柱が抜き取られていることが分るが、直径50cmの柱痕跡が確認できた。東より)



(2) SH1-P1

(方形の掘方と根巻石が確認でき、底に直径50cmの柱痕跡を確認することができた。東より)

報告書抄録

フリガナ		カケノウエイセキ		シャシシズバンヘン		
書名		掛之上遺跡49・52 写真図版編				
副書名		袋井市駅前第二地区土地面整理事業に伴う発掘調査報告書20				
編集著者名		松井一明				
編集機関名		袋井市教育委員会				
所在地		〒437-8666 静岡県袋井市浅名1208 ☎0538-23-9269				
発行年月日		2007年3月26日				
フリガナ 所収遺跡名		カケノウエイセキ 掛之上遺跡				
フリガナ 所在地		シズオカケンフクロイシタカオカノウエ 静岡県袋井市高尾掛之上				
コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
市町村	遺跡番号	34° 44' 24"	137° 55' 53"	20060501 ～ 20070326	1090.0㎡	袋井市駅前第二地区 土地面整理事業に 伴う西通掛之上線・ 田端掛之上線道路建 設
22216	151					
所収遺跡名		種別	時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
掛之上遺跡		集落跡	弥生時代 中・後期 古墳時代 後期 奈良時代 近世	竪穴住居 方形周溝墓 土坑 竪穴住居 土坑 大型掘立柱建物 区画溝 地割溝	土器・石器 土器（土師器・須 恵器） 須恵器 陶磁器	弥生時代中・ 後期拠点集落 有力集落 郡衛正倉関連

袋井市駅前第二地区土地面整理事業に伴う発掘調査報告書20

掛之上遺跡 49・52

— 写真図版編 —

発行年月日 2007年3月26日

編集・発行 袋井市教育委員会

袋井市役所都市建設部区画整理課

〒437-8666 静岡県袋井市新屋1-1-1

印刷 松本印刷株式会社

〒437-0013 静岡県袋井市新屋4丁目5-2